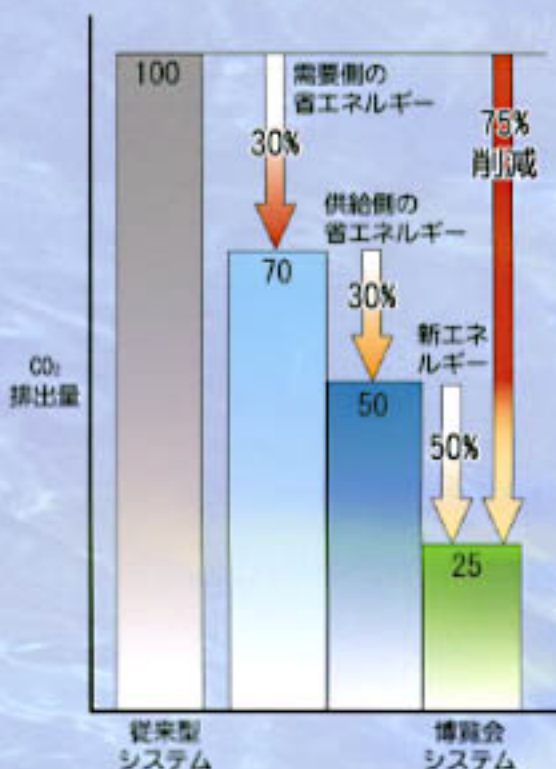




①75%CO₂排出量削減

化石燃料の消費を、需要側と供給側の省エネルギーと新エネルギーの導入により、地球温暖化の原因の1つであるCO₂の排出量を従来型のシステムと比較して75%削減することを目標とします。

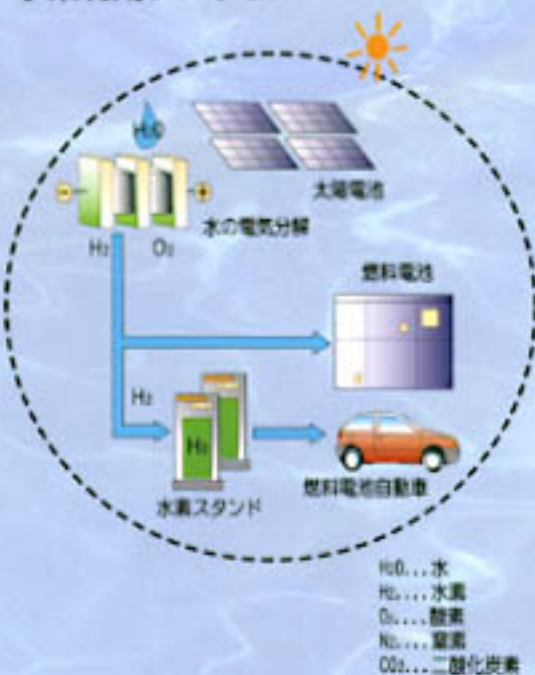
75%CO₂排出削減のイメージ



②革新的技術の導入

太陽光発電を利用した水の電気分解や都市ゴミ落ち葉などの未利用な有機物資源(バイオマス)から製造する水素を利用するシステムなど、様々な革新的技術導入の可能性を検討していきます。

水素利用システム



③体験プログラムの検討

博覧会を通じて、できるだけ多くの人達にエネルギーを体験していただくため、「見る」「遊ぶ」「学ぶ」といった様々な展示・参加方法を展開していきます。その1つに地区別エネルギーシステムがあります。地区毎に性格の異なるエネルギーシステムを設定し、エネルギーシステムの多様化を図るとともに、その地域の特性に沿ったテーマを展開することで、エネルギーシステムを展示施設の一部として位置づけています。



可能な限り“モノ”や“水”の循環を行うと同時に、循環型社会に向けてのライフスタイルや技術などの情報発信の場となる「ゼロエミッションを実感できる博覧会」を目指しています。

①“モノ”や“水”の循環によるゼロエミッション

“モノ”の循環については、発生抑制、リユース、リサイクルにより、建設から撤去までの各段階において、博覧会から発生するゴミの最少化を図っていきます。また、水循環の観点からの取組みも進め、中水の利用や自己完結型トイレなどの検討をしていきます。



中水とは、水道水(上水)を使うことにより発生する下水を会場内で簡易的に浄化処理し、トイレ洗浄や散水などに再利用する水のことです。

②“参加”や“連携”によるゼロエミッション

市民参加、企業参加、地域連携の観点から、資源循環を支えるネットワークづくりを進めます。その一環として、地域と連携して育み、地域に根ざしていくリサイクルシステムづくりをしていきます。

③“楽しむ”・“行動する”ゼロエミッション

ゲーム感覚で楽しみながら参加するしくみとして、“ゼロエミッションEXPOルール”や“エコマネー”の導入、また、日本全国や世界での取り組みと情報で連携する“ゼロエミッション・サテライト”などの検討を進めています。



博覧会事業におけるゼロエミッションとは、各関係者の連携によってゴミを資源として活用することなどです。資源のムダを減らし環境への負荷をできるだけ抑えようとする“循環型”の社会や技術を提案するという方針で進めています。

ゼロエミッション・コミュニティのイメージ

